

## 市民事業等支援制度の総括に向けた企画（案）

## （仮題）市民事業等支援制度 20 年間の報告書について

## ○ 目的

市民事業等支援制度 20 年間の取組みや成果をとりまとめるとともに、水源環境保全・再生に係る活動を行っている、またはこれから活動を始める市民団体の活動の一助となるような報告書を作成する。

## ○ 位置づけ

総合的な評価（最終評価）報告書

## ○ 作成者・提出先

- ・ 作成者：水環境保全・再生かながわ県民会議市民事業専門委員会
- ・ 発行者：水環境保全・再生かながわ県民会議
- ・ 提出先：神奈川県

## ○ 内容（目次案）

- ・ はじめに（報告書の目的）
- ・ 制度発足の経緯
- ・ 制度の変遷
- ・ 成果・実績
- ・ 補助金活用事例
- ・ 総括

## ○ 配布先

- ・ 県関係所属（NPO 法人所管課、地域県政総合センター森林部、環境科学センター、自然環境保全センター、かながわ県民活動サポートセンター等）
- ・ 市町村関係所属（市町民活動支援センター、市町民活動サポートセンター等）
- ・ 環境保全を目的とする NPO 法人 等

【参考：第94回委員会議事録抜粋】

- ・ ここで20年が終わるから頑張りましたね、よかったですねという報告書にどんな意味があるのか。神奈川県と市民団体が20年間頑張りましたねというよりも、この先どうするかが喫緊の課題であって、水源環境保全税がなくなるのであればしょうがないですけど、その後、山をどうしていくのかというところでは、今一番の大きな課題は継続していかなければならないシカ対策。神奈川県は進んでいるからいいですけど、全国的に見ればハンターの高齢化が最大の問題になっています。今、新しく学者だとか若い学生が入ってきてますけど、将来、何十年続けなければならぬのかわかりませんが、半永久的なことを民間がやっている一つの具体的な姿として、この活動を報告書に入れて項目するということを考えなければならぬと思います。他のジャンルもそうですけど、20年間頑張りました、じゃあ来年から、これまでやってきたところの山はどうするのですか。具体的にどう記述できるかってことは考えなければいけません。そういう明らかに継続していくであろうことは、訪問前提ではなく報告書に入れた方が良いでしょう。（石本委員）
- ・ 報告書を作って令和8年度にホームページに公開することは、水源環境施策のひとつの記念品として形に残すことも大事だけど、この後どうするのかがすごく問題で、森林の衰退が続いていくわけだから、それに対するヒントになるような報告書じゃないとダメですよ。過去にやってきて成功している人達だから、それを取材することはとっても良いことだと思います。（青砥委員）
- ・ 補助金を出しているのだから金額の多いところには行ってもいいのかなと思います。四十八瀬川自然村は補助額が多く、しかも、これだけの年月でどう活用されていたのかを見るのはあるかなと思います。（藤井副委員長）